

県立高等学校入学者選抜調査改善委員会  
中間とりまとめ検討資料

## 目次

1	調査改善委員会設置の趣旨	1
2	入学者選抜における採点誤りの概要	1
	(1) これまでの経過	
	(2) 再点検の結果について	
3	これまでの調査結果から考えられる誤りの原因分析	4
	(1) 採点時間、採点環境等と採点誤りとの相関関係	
	(2) ミスの起こりやすい箇所の特定による原因分析	
	(3) 採点誤りに関わった採点・点検者の教科及び職の関係	
	(4) 答案用紙の誤廃棄の原因分析	
4	現時点で考えられる再発防止・改善策の方向性	10
	(1) 採点・点検に専念できる環境の確保	
	(2) 採点・点検方法、作問・出題形式の工夫・改善	
	(3) マークシートによる採点の導入の検討	
	(4) 採点・点検に対する意識の向上	
	(5) 規範意識の向上、研修の充実等	
5	平成29年度入学者選抜実施後の検証方法等について	12

## 1 調査改善委員会設置の趣旨

神奈川県教育委員会（以下「県教育委員会」という。）は、平成 28 年度及び平成 27 年度の入学者選抜の採点について、再点検の過程において明らかになった事実から、入学者選抜の根幹を揺るがす事態と重く受け止め、一刻も早く採点誤りの原因を徹底的に調査・究明し、実効性のある再発防止・改善策を構築するとともに、事後の検証方法等について、協議・検討を依頼するため、平成 28 年 3 月 29 日に本委員会を設置した。

そして、本委員会に対して、平成 29 年度入学者選抜に再発防止・改善策を反映させるため、5 月末を目途にとりまとめるよう依頼があり、全 5 回にわたる委員会を通じて、議論を重ねることとした。

## 2 入学者選抜における採点誤りの概要（県教育委員会公表資料を引用）

入学者選抜における採点誤りが判明してからこれまでの経過及び再点検の結果は次のとおりである。

### (1) これまでの経過

- 平成28年 3 月 4 日 ある県立高等学校の受検者から平成28年度入学者選抜における答案用紙の自己情報開示請求
- 3 月 7 日 当該校が開示にあたり答案用紙を点検したところ、小計点及び合計点に誤りがあることが判明
- 3 月 8 日 県教育委員会から、学力検査を実施した全県立高等学校に、全受検者の全教科について点検するよう指示し、各学校が一斉に再点検を実施
- 3 月 10 日 点検途上で、複数の学校で誤りがあることが明らかになり、県教育委員会から、小計点及び合計点以外の採点についても点検するよう指示し、各学校が一斉に再点検を実施
- 3 月 11 日 平成28年度入学者選抜に係る小計点及び合計点の採点誤りについて公表。さらに、県教育委員会から、昨年度実施した平成27年度入学者選抜についても点検するよう指示し、各学校が一斉に再点検を実施

## (2) 再点検の結果について

ア 平成28年度入学者選抜に係る採点誤りにおける再点検の結果  
全県立高校 143 校中、学力検査を実施した県立高校 139 校、157 課程

再点検の内容	誤りのあった 学校数・課程数	誤りのあった 受検者数	本来合格と すべき受検者数
小計点及び合計点	57校・57課程	109名	1名
小計・合計 以外の採点	66校・67課程	222名	1名
合 計	88校・89課程	330名	2名

- ※1 誤りのあった学校数・課程数は、重複している学校が 35 校、35 課程があるため合計は異なる。
- ※2 誤りのあった受検者数には、重複して誤りのあった生徒が 1 名いるため、合計は異なる。
- ※3 採点誤りにより、本来不合格であった受検者を合格としていたため、本来合格とすべき受検者を不合格としていた人数（その他の受検者については、採点誤りの結果が合否の判定を覆すまでには至らなかった。）

イ 平成27年度入学者選抜に係る採点の再点検の結果  
全県立高校 143 校中、学力検査を実施した県立高校 139 校、157 課程

再点検の内容	誤りのあった 学校数・課程数	誤りのあった 受検者数	本来合格と すべき受検者数
小計点及び合計点	50校・52課程	80名	1名
小計・合計 以外の採点	47校・48課程	108名	1名
合 計	71校・75課程	188名	2名

- ※1 誤りのあった学校数・課程数は、重複している学校が 26 校、25 課程があるため合計は異なる。
- ※2 採点誤りにより、合格とすべき受検者を不合格としていた人数（その他の受検者については、採点誤りの結果が合否の判定を覆すまでには至らなかった。）

ウ 答案用紙の誤廃棄

平成 27 年度入学者選抜に係る採点の再点検を指示したところ、「神奈川県教育委員会行政文書管理規則」において、本来、1 年間保存すべき答案用紙を、保存期間経過前に廃棄してしまった高校 3 校が判明した。

誤廃棄の あった学校名	経 緯
白山高校	平成28年1月7日、保管していた平成27年度の答案用紙等を搬出し、シュレッダー処理してしまった。途中で誤りに気づき、処理を中止したが、国語の答案用紙374枚中171枚を誤廃棄してしまった。
港北高校	平成28年1月20日、保管していた平成27年度の答案用紙等を搬出し、シュレッダー処理してしまった。
相模原総合 高校	平成28年3月7日、保管していた平成27年度の答案用紙等を搬出し、シュレッダー処理してしまった。

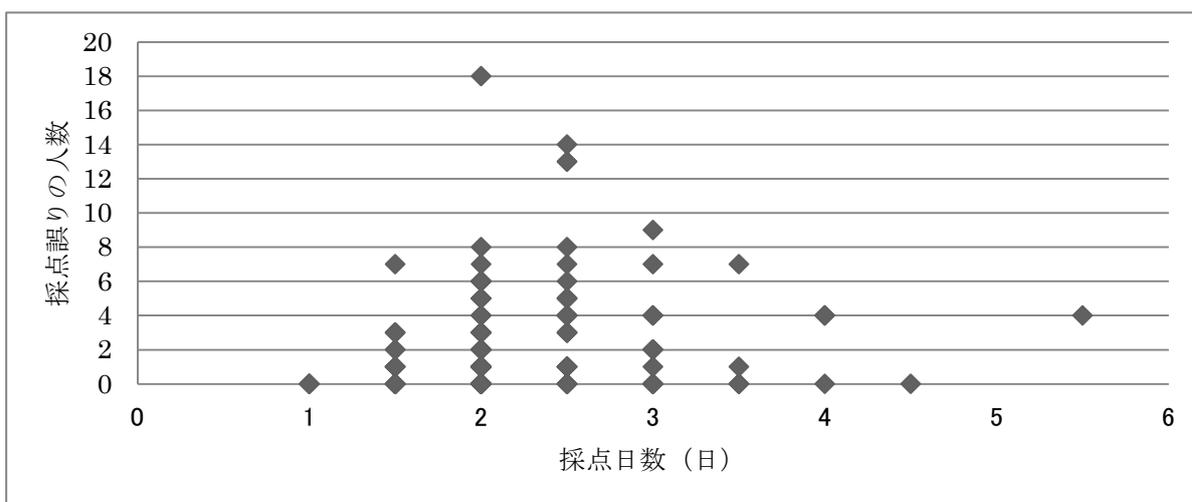
### 3 これまでの調査結果から考えられる誤りの原因分析

#### (1) 採点時間、採点環境等と採点誤りとの相関関係

##### ア 採点日数及び受験者数等と採点誤りとの相関関係

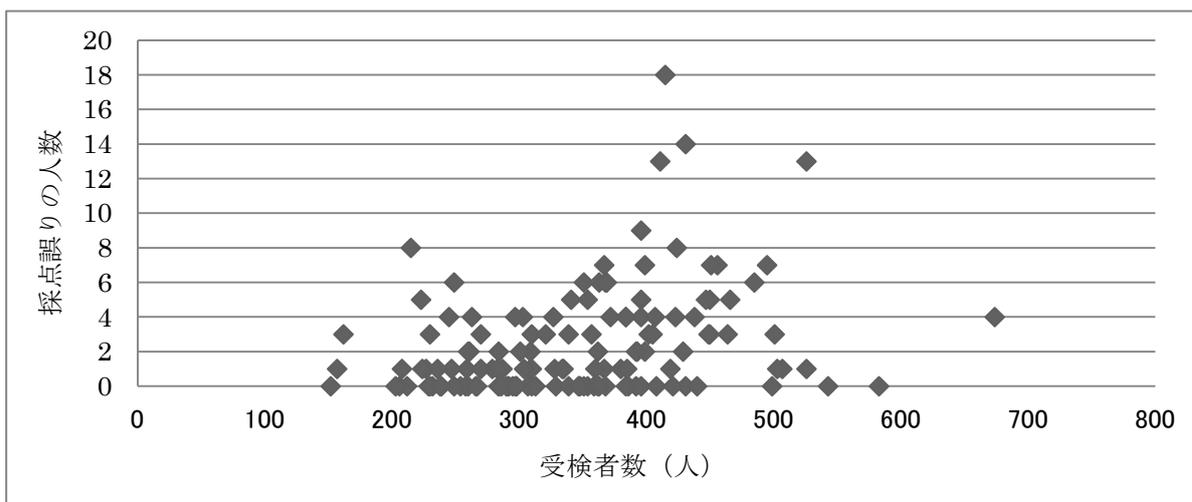
県教育委員会では、他の都道府県に比して学力検査日から合格発表までの期間があり、採点日数は確保できていると考えてきたようだが、今回、多くの採点誤りが判明したため、採点日数や受験者数と採点誤りに関する相関関係について、調査を依頼したところ、次のような結果が示された。

【資料1】採点日数と採点誤りの相関関係



相関係数=0.14

【資料2】受験者数と採点誤りの相関関係



相関係数=0.32

県立高校に調査を依頼し、採点日数や受験者数と採点誤りに関する相関関係を調査したが、そのデータからは、特段の相関関係は見られなかった。

また、採点の合間にとる休憩時間及び採点誤りが発生した時刻と採点誤りの関係についても調査を依頼し、次のような結果が示された。

**【資料3】 休憩時間の取得** (平成28年度入学者選抜)

方 法	全日制	定時制
全職員一斉に休憩	88(56)課程	12(2)課程
教科ごとに設定して休憩	41(26)課程	3課程
そ の 他	7(4)課程	6(1)課程
合 計	136(86)課程	21(3)課程
	157(89)課程	

( ) 内は採点誤りのあった課程数

**【資料4】 採点誤りが発生した時間と採点誤りの関係**

(平成28年度入学者選抜)

採点時間	9～11時	11～13時	13～15時	15～17時	17時～	不明
誤り件数	99件	38件	85件	90件	7件	14件
	29.7%	11.4%	25.5%	27.0%	2.1%	4.2%

休憩の取得方法と誤りのあった課程数に特徴は見られず、また、採点誤りの発生時間が特定の時間に集中していることもなかった。

**イ 採点時間、休憩の取得、採点環境等に起因する原因分析**

調査結果からは、採点日数や受検者数と採点誤りに、特段の相関関係は見られなかったが、採点誤りのあった学校への聞き取りからは原因が見てとれ、本委員会からも意見が出た。

① 学校からの聞き取り

- 教科によって採点時間が異なり、他の教科に対して遅れているため、追いつかなければならない、あるいは、早く終わらせたいという心理が働いた。タイムプレッシャーはあった。
- 特に受検者数の多い学校、特色検査のある学校では、時間的なプレッシャーがあった。
- 採点環境について、会議室が狭く、他の教科と接近した状況で採点を行っていたため、集中できなかった。

② 本委員会から出た意見

- 今後再編統合により、受検者数がどこかの学校に偏ってくると、当該校が今までと同じやり方、日程でできるのか心配。

- 会議室での採点環境に問題があったのではないかと。ケアレスミスを誘発しやすい環境の改善は必要。
- 相関関係がデータからは読み取れないかもしれないが、特定の教科では採点に時間がかかるなど、時間的なプレッシャーはあったと考えられる。採点にあたり、ゆとりや余裕を持って臨む環境を作ることは必要。
- 金曜日という、1週間の疲労がたまった日（体力限界期）から採点が始まっていることが、ミスを生じているのではないかと。また、朝のスタートから誤りが発生しており、面接が終わって、翌日、1回リフレッシュする時間を設けてから、採点を始めても良かったのではないかと。

### 《現時点での考察》

※調査継続中のものもあるが、現時点で考えられる要因を考察してみた。

#### ＜採点日数・時間＞

- 合格発表までに一定の期間があるとはいえ、教科によって採点時間にばらつきがある中で、時間的なプレッシャーがかかり、焦りが出たり、集中力が維持できなかったことが誤りの原因の一つとなっている。
- 合格発表までのスケジュール管理が綿密とは言えなかったのではないかと。特に受検者数の多い学校のスケジュールに合わせて日程を組む必要がある。
- 他の業務と並行して採点が行われているなら、役割分担を明確にしておかないと、ミスを生じている原因となる。

#### ＜採点環境＞

- 採点日を臨時休業とするなど、採点に集中できる環境を整えているとはいえ、会場が一ヶ所で全教科が集中すると、他の教科の採点・協議の声や進捗状況が気になり、集中できないことなどが誤りの原因の一つとなっている。

## (2) ミスの起こりやすい箇所の特定による原因分析

### ア 採点誤りの起こりやすい箇所の分析

採点ミスがどのような箇所に多いか分析することで、原因を特定できると考え、ミスの多い箇所の特定及びその内容について調査を依頼した結果、次のような結果が示された。

まず、記号選択式の問題と記述式の問題別にみると、記述式の問題に誤りが多い。また、その中でもまとまった文章等の記述に誤りが多い。

#### ＜資料5参照＞

記号選択式の問題では、選択肢から1つを選択する問題と、選択肢から複数を選択したり、選択したものを並び替える問題では、ミスの発生頻度に特に差が見られない。

また、記述式問題に関する正誤の誤り、小計・合計の誤りからは次のようなことがわかる。

① 記述式問題に関する正誤の誤り

- ・ 英語は、スペルミスの見逃しによる誤りが多い。
- ・ 国語は、文末指定や誤字の見逃しによる誤りが多い。
- ・ 数学は、記号や誤字の見逃しによる誤りが多い。
- ・ 理科は、誤字の見逃しによる誤りが多い。
- ・ 社会は、指定語句や誤字の見逃しによる誤りが多い。

※ これ以外は、単純に正答を誤答又は誤答を正答にしているケースが主なもの

② 小計・合計の誤り

- ・ 小計を算出する際、配点を誤ったと思われるものが多い。特に小問ごとの配点が複雑でわかりにくい問題ほど、小計の誤りが多い。
- ・ バツの斜線を1点と見誤ったケースがあった。
- ・ 点検の際につけるレ点を×と勘違いし、小計に反映しなかったケースがあった。

## イ 学校からの聞き取り

- 記述の内容に注意が偏り、誤字や脱字のミスに気付かなかった。
- 正答を暗記して採点を行っていた結果、誤答を正答としてしまった。
- 採点者1の採点が正しく行われているという思い込みから、それを追認してしまう、あるいは点検者が複数いる中で依存してしまった。

## ウ 本委員会から出た意見

- 採点ミスの内容からすれば点検が機能していなかっただけなのではないか。採点よりも点検の充実に力点を入れて対策を考えるべき。
- 採点を余白に行うこと自体が原因の一つである。採点・点検欄を設けるべき。
- 解答用紙の狭い欄に、いくつものチェックが入れば、見誤りも起こる。採点・点検マニュアルの見直しが必要。
- これまで生徒のことを考えた解答用紙を作成してきたのだろうが、これからは採点者のことも考えた解答用紙を作成すべき。

- 小計を算出する際、ひと手間かけなければならない配点は見直すべき。
- 神奈川は、記述式のウェイトが大きいのではないかと。より採点が簡易な記述式問題を検討すべき。

#### 《現時点での考察》

##### ＜作問・出題形式＞

- 限られた時間で採点・点検を行う必要がある入試において、学力検査の出題形式（記述式）や配点の方法が、採点誤りの原因の一つとなっている。

##### ＜解答用紙＞

- 解答用紙に直接採点する方式にも関わらず、生徒の答えにかからないよう採点するため、採点・点検するスペースが少なく、採点を意識した用紙になっていないことが採点誤りの原因の一つとなっている。

##### ＜採点・点検方法＞

- 採点・点検は、採点者が単独で受検者の答案と正答表を見比べて行っているが、記号選択式問題については、正答と見比べることなく、採点・点検者が暗記して採点していた実態もあり、こうした採点方法をとったことが採点誤りの原因の一つとなっている。
- 採点者1の採点後、採点者2、さらに2人の点検者がおり、また、小計・合計の算出の際にも、算出後に2人の点検者がいる。その中で、最初に採点したものに誤りはない、ましてや、単純な記号選択式問題において誤りはない、という思い込みがあり、採点結果をそのまま追認したケースがあったことは、点検が機能していなかったと言わざるを得ない。
- また、2人目の点検者については、自分の前に点検が行われているのだから誤りはない、という思い込みがあったことは、前の採点・点検結果に引きずられていたと考えざるを得ず、前述と同様、点検が機能していなかったと言わざるを得ない。
- マニュアルどおりに点検の際にレ点を付け、それを斜線と見誤って小計に誤りがあったことなど、マニュアルの中にも、採点誤りを引き起こす原因につながっているものがある。

### (3) 採点誤りに関わった採点・点検者の教科及び職の関係

採点誤りに関わった教職員の担当教科及び職から、誤りの原因が見えるのではないかと考え、調査を依頼したところ、次のような結果が示された。

- ア 問題の正誤の採点誤りは記述問題に多く、記述問題の採点は主に担当教科の教員が行うため、担当教科の教員が誤りに関わった比率が高い。
- イ 小計・合計の算出については、担当教科以外の教員が多く関わるため、担当教科以外の教員が誤りに関わった比率が高い。
- ウ 学校の教職員全員体制で採点を行っている中で、特定の職に偏って採点誤りがあったとは言えない。

<資料6 参照>

エ 採点者の教科や職とは関係ないが、新規採用教員に対する研修について次のような意見があった。

- 新任の教員も採点に関わると思う。実際の採点を意識したレクチャーなど、個別の説明や指導などを行うべき。
- ベテランの教員の中には、採点で誤りを起こしやすいポイントを感覚的に分かっているものがある。そうした経験値を生かしてほしい。

#### 《現時点での考察》

<誰にでも起こりうる可能性>

- 特定教科の教員に偏って採点誤りがあった、あるいは、特定の職に偏って採点誤りがあったということではないことから、逆に言えば、誰にでも起こりうる可能性があるという前提に立って、学校の採点・点検体制全体の問題として捉え、改善策を打ち出す必要がある。

### (4) 答案用紙の誤廃棄の原因分析

答案用紙の誤廃棄については、調査結果からも明らかである。

#### 《現時点での考察》

<規範意識>

神奈川県教育委員会行政文書管理規則の規定にのっとり、本来1年間保存すべき文書を、保存期間経過前に廃棄してしまったというもので、規範意識が低かったと言わざるを得ない。

## 4 現時点で考えられる再発防止・改善策の方向性

ここでは、現時点で考えられる方策を示す。今後、さらに議論を進め、最終的にとりまとめることとする。

- 採点・点検に専念できる環境の確保
- 採点・点検方法、作問・出題形式の工夫・改善
- マークシートによる採点の導入の検討
- 採点・点検に関する意識の向上
- 規範意識の向上、研修の充実等

### (1) 採点・点検に専念できる環境の確保

入学者選抜の日程としては一定程度確保できている現状からすれば、この日程を有効に活用した上で、採点に集中できる環境を整える必要がある。

#### ア 採点に専念できる時間の確保

現在、採点日として設定している1日に加え、さらに1日を採点日として設定し、採点・点検に専念できる環境と場所を確保する。（在校生の授業時間の確保との兼ね合い）

#### イ 休憩時間の確保の徹底

採点・点検の際は、連続作業による教員の集中力や緊張感の減衰を避けるため、休憩時間の確保を徹底するなど、採点体制について、採点方法とあわせて考えていく。

### (2) 採点・点検方法、作問・出題形式の工夫・改善

採点誤りの多くが、点検が十分に機能していなかったことにより起こっている実態を踏まえ、これまで教員が単独で行ってきた採点・点検を見直すことが重要と考える。加えて解答用紙、出題形式等を見直すことで、誤り防止につながるものがあれば、あらゆる手立てを講じる必要がある。

#### 採点・点検方法

ア 記号選択式問題の採点については、2人一組で読み上げ方式により行うか、2系統で採点を行い、突き合わせて齟齬がないか確認することによりミスの可能性をなくす。

イ 記述式問題については、2系統で採点后、突き合わせて齟齬がないか確認する。（加えて、誤字・脱字のみをチェックする者を設ける。）

ウ 解答用紙に問題ごとの点数を記入する小計欄を設けるなど、採点者の立場に立った見直しを図り、点数の計算誤りを防止する。

- エ 解答用紙の見直し等を行ったうえで、現場の意見を踏まえ、採点・点検者の視点から、新たな採点・点検の手法を示したマニュアルに改訂する。
- オ 新たな採点・点検方法によるシミュレーションを各学校が行えるよう、県教育委員会はスケジュールを早期に示して、円滑に平成29年度入学者選抜が行えるよう配慮する。
- カ 場合によっては、他の学校の受検生の答案を相互チェックするという方法も検討する。
- キ 合否のボーダーラインの受検生に対する再点検をスケジュールに組み込み、任意ではなく、必須とする。

#### 作問・出題形式

- ア 問題の配点が複雑にならないような工夫をする。
- イ 記述式問題のウェイトを下げるなど、出題形式の見直しを図る。  
また、記述式問題については、より採点がしやすい問題となるよう工夫する。

### (3) マークシートによる採点の導入の検討

採点・点検に当たってヒューマンエラーを防止する観点から、記号選択式問題の解答方式についてはマークシート方式の導入を検討すべきと考える。ただし、本委員会においても、様々な意見があり、導入に向けた課題も出ていることから、次のとおり意見及び課題を付記する。

#### 意見・課題

- ・ マークシートを導入することにより、記述式の採点に集中できるメリットがある。
- ・ マークシートを導入する場合、記号選択問題と記述問題の解答用紙の分け方をどうするか検討する必要がある。
- ・ マークシートを検討する以前に、採点誤りがなかった学校が30校あったのも事実であり、まずは本質的なところから採点誤りをなくす方法を探らないと、根本的な解決にならない。
- ・ 平成29年度入学者選抜に向けて、マークシート方式を導入しても、中学生が対応可能か。解答にかかる時間が増えるのではないか。試験時間はそのままよいのか。

### (4) 採点・点検に対する意識の向上

採点・点検に当たる教員が適度な緊張感を保ち、誤りなく採点・点検を行うよう、管理職が声掛けを十分に行うことで、誤りのない採点・点検に対する意識を向上させる。

**(5) 規範意識の向上、研修の充実等**

行政文書の保存期間等、決められた規定の遵守を徹底するため、管理職は校内研修等を積極的に行い、意識の向上を図る。あわせて、年次経験者研修などにおいて、定期的に規定の確認を行うなど、繰り返し規定の遵守を働きかけ、規範意識を向上させる。

**5 平成29年度入学者選抜実施後の検証方法等について**

平成29年度入学者選抜合格発表後、入学までの間に採点誤りについて検証を行い、誤りがなかったことを証明しなければならない。

- (1) 受検者からの答案を確認したい旨の申し出に基づき、合格発表日以降に答案の写しを速やかに交付できる仕組み（現行の自己情報開示請求の前倒し）を検討する。
- (2) 県教育委員会事務局において、抽出による再点検を実施する 等

【資料5】

県立高等学校における入学者選抜に係る採点の誤りの問題別集計

1 平成27年度

教科	記号選択式			記述式		合計
	選択肢から1つを選択	選択肢から複数を選択し正しい順に並べる	選択肢から複数を選択する(順序不問)	用語・数値・漢字等の記述	まとまった文章等の記述	
英語	3 + 1	1 + 1	0	0 + 1	9	16
国語	7	0	0	10	20	37
数学	0	0	1	7	24	32
理科	7	0	1	0	6	14
社会	2	1	0	0	7	10
合計	20	3	2	18	66	109

(英語の+数字は定時制の問題における誤りの数)

2 平成28年度

教科	記号選択式			記述式		合計
	選択肢から1つを選択	選択肢から複数を選択し正しい順に並べる	選択肢から複数を選択する(順序不問)	用語・数値・漢字等の記述	まとまった文章等の記述	
英語	10 + 1	2	0	3	15	31
国語	2	0	0	10 + 1	34 + 2	49
数学	0	0	0	12	12	24
理科	7	0	0	2	8	17
社会	14	3	2	22	58	99
合計	34	5	2	50	129	220

(英語、国語の+数字は定時制の問題における誤りの数)

【資料6】

入学者選抜（小計・合計の誤り）における誤りに関わった教職員の教科及び職と人数の関係について

【資料6-1】

平成27年度入学者選抜（小計・合計の誤り）における誤りに関わった教職員の教科と人数の関係について

	外国語 (英語)	国語	数学	理科	社会	特色検査	計
誤りの件数	14	24	8	11	21	1	79
当該教科	23 54.8%	33 40.7%	10 41.7%	24 70.6%	27 44.3%	3	117
他教科	19 45.2%	48 59.3%	14 58.3%	10 29.4%	34 55.7%		125
合計	42	81	24	34	61	3	245

平成27年度入学者選抜（採点の正誤）における誤りに関わった教職員の教科と人数の関係について

	外国語 (英語)	国語	数学	理科	社会	特色検査	計
誤りの件数	16	37	32	14	10	0	109
当該教科	48 76.2%	102 67.1%	111 84.7%	37 72.5%	22 56.4%	0	320
他教科	15 23.8%	50 32.9%	20 15.3%	14 27.5%	17 43.6%		116
合計	63	152	131	51	39	0	436

平成28年度入学者選抜（小計・合計の誤り）における誤りに関わった教職員の教科と人数の関係について

	外国語 (英語)	国語	数学	理科	社会	特色検査	計
誤りの件数	15	26	11	21	32	3	108
当該教科	34 75.6%	29 36.7%	24 72.7%	51 78.5%	35 35.0%	9	173
他教科	11 24.4%	50 63.3%	9 27.3%	14 21.5%	65 65.0%		149
合計	45	79	33	65	100	9	331

平成28年度入学者選抜（採点の正誤）における誤りに関わった教職員の教科と人数の関係について

	外国語 (英語)	国語	数学	理科	社会	特色検査	計
誤りの件数	31	49	24	17	99	5	225
当該教科	101 78.9%	164 82.4%	77 80.2%	61 91.0%	287 73.6%	19	690
他教科	27 21.1%	35 17.6%	19 19.8%	6 9.0%	103 26.4%		190
合計	128	199	96	67	390	19	899

【資料6-2】

平成27年度入学者選抜（小計・合計の誤り）における誤りに関わった教職員の職と人数の関係について

	外国語 (英語)	国語	数学	理科	社会	特色検査	計
誤りの件数	14	24	8	11	21	1	79
副校長・教頭	0	0	0	0	0	1	1
総括教諭	2	7	5	4	7	1	26
教諭(常勤)	33	60	18	21	43	1	176
再任用教諭	2	7	0	2	5	0	16
臨時的任用教諭	3	5	0	3	4	0	15
養護教諭	2	1	1	1	2	0	7
再任用養護教諭	0	0	0	0	0	0	0
臨任養護教諭	0	1	0	0	0	0	1
実習助手	0	0	0	3	0	0	3
臨任実習助手	0	0	0	0	0	0	0
非常勤講師	0	0	0	0	0	0	0
合計	42	81	24	34	61	3	245

平成27年度入学者選抜（採点の正誤）における誤りに関わった教職員の職と人数の関係について

	外国語 (英語)	国語	数学	理科	社会	特色検査	計
誤りの件数	16	37	32	14	10	0	109
副校長・教頭	0	1	0	0	0	0	1
総括教諭	10	14	9	8	7	0	48
教諭(常勤)	40	102	108	23	25	0	298
再任用教諭	6	19	9	7	5	0	46
臨時的任用教諭	6	13	2	3	1	0	25
養護教諭	1	1	2	0	1	0	5
再任用養護教諭	0	2	0	0	0	0	2
臨任養護教諭	0	0	0	0	0	0	0
実習助手	0	0	0	7	0	0	7
臨任実習助手	0	0	1	3	0	0	4
非常勤講師	0	0	0	0	0	0	0
合計	63	152	131	51	39	0	436

平成28年度入学者選抜（小計・合計の誤り）における誤りに関わった教職員の職と人数の関係について

	外国語 (英語)	国語	数学	理科	社会	特色検査	計
誤りの件数	15	26	11	21	32	3	108
副校長・教頭	0	0	0	0	0	0	0
総括教諭	2	11	1	8	10	0	32
教諭(常勤)	35	54	24	38	76	8	235
再任用教諭	2	4	4	4	5	1	20
臨時的任用教諭	5	8	4	11	4	0	32
養護教諭	0	1	0	2	3	0	6
再任用養護教諭	0	0	0	0	0	0	0
臨任養護教諭	1	0	0	0	0	0	1
実習助手	0	1	0	2	1	0	4
臨任実習助手	0	0	0	0	1	0	1
非常勤講師	0	0	0	0	0	0	0
合計	45	79	33	65	100	9	331

平成28年度入学者選抜（採点の正誤）における誤りに関わった教職員の職と人数の関係について

	外国語 (英語)	国語	数学	理科	社会	特色検査	計
誤りの件数	31	49	24	17	99	5	225
副校長・教頭	0	1	0	1	1	0	3
総括教諭	9	20	10	10	51	2	102
教諭(常勤)	93	144	71	39	277	17	641
再任用教諭	12	6	7	5	29	0	59
臨時的任用教諭	12	21	7	1	27	0	68
養護教諭	0	1	1	0	4	0	6
再任用養護教諭	0	0	0	1	0	0	1
臨任養護教諭	0	1	0	0	0	0	1
実習助手	1	1	0	10	0	0	12
臨任実習助手	0	4	0	0	1	0	5
非常勤講師	1	0	0	0	0	0	1
合計	128	199	96	67	390	19	899